

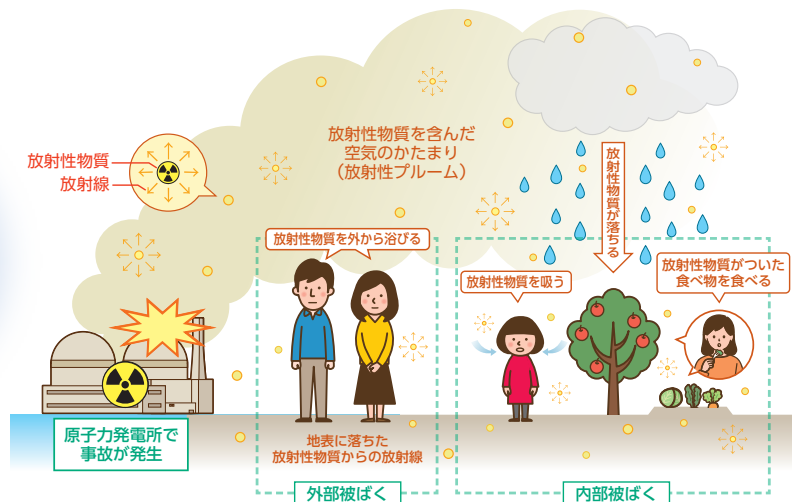
市では原子力災害に備えて、安定ヨウ素剤の備蓄や放射線量率の測定、原子力防災訓練などを行っています。もしもの場合に備えて、原子力災害を知り、備えましょう。

原子力災害って何？発生したらどうなるの？

原子力災害とは、原子力発電所などの事故で大量の放射性物質が大気中に放出され、放射線による影響で健康被害や環境被害が発生することをいいます。

発生すると、原子力発電所から放出された放射性物質が大気に流れ込み、気体や粒子状の放射性物質を含んだ空気の固まり(放射性プルーム)が風下に流れながら広がっていきます。

もし風下にいた場合、放射性物質から放射線を受ける“被ばく”の可能性があります。

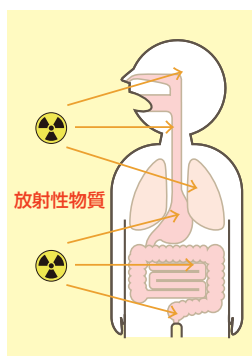


“被ばく”には2種類ある

被ばくとは、放射線を体に受けることをいい、“外部被ばく”と“内部被ばく”の2種類に分けられます。原子力災害時には外部被ばくと、内部被ばくの両方から身を守ることが大切です。

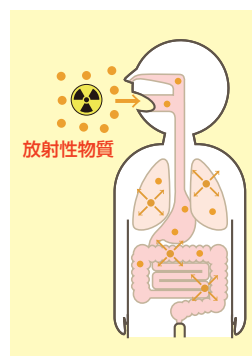
外部被ばく

レントゲンのように体の外から放射線を受けること



内部被ばく

呼吸をしたり、食べ物を食べたりして空気中や食べ物に含まれる放射性物質が体の中に入り、体の中から放射線を受けること



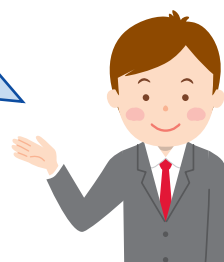
米原市の状況



もし原子力災害が起きたら米原市は大丈夫なの？

米原市は、原子力発電所から概ね半径30km圏外のため、国の原子力災害対策基本指針において示されている原子力対策を重点的に実施すべき地域に入っていません。

しかし、気象条件によっては、放射性物質が到達する可能性がありますので、市は万一に備え防護対策の推進を検討しています。



さらに詳しく (4ページへ)

さらに詳しく！

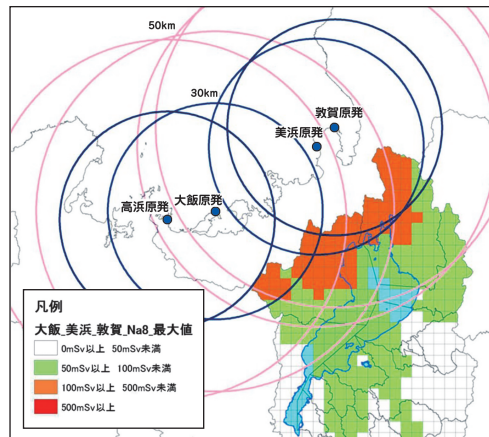
米原市の状況

原子力発電所で事故が発生した場合、米原市は、**市内面積の3分の1が原子力発電所から半径50km圏内に含まれている**ため、気象条件によっては、放射性物質が到達することが予測されています。

放射性物質の拡散予測結果

滋賀県が独自に行った放射性物質の拡散予測では、米原市は甲状腺の被ばく等価線量が50ミリシーベルト～100ミリシーベルトと予測されており、国際原子力機関(IAEA)が示す安定ヨウ素剤服用の判断基準である『甲状腺被ばく等価線量50ミリシーベルト以上となる地域』に含まれています。

そのため、米原市は、国の原子力災害対策基本指針において示されている原子力対策を重点的に実施すべき地域に指定されていますが、万一の事故に備え、市では以下の対策を行っています。



出典:滋賀県地域防災計画 原子力災害対策編



米原市の取り組み

- ☑ 安定ヨウ素剤の備蓄 ☑ 原子力防災訓練
 - ☑ 月に1回、市内11カ所で平常時の空間放射線量率(大気中の放射線量)の測定
- 今後はこれらに加え、更なる防護対策を推進する予定です。

安定ヨウ素剤の服用は、原子力災害時の有効な対策の一つです

原子力発電所で事故が発生すると様々な放射性物質が放出され、その中に“**放射性ヨウ素(ヨウ素131)**”が含まれます。ヨウ素は自然界に存在する元素で、**放射線を出す放射性ヨウ素(ヨウ素131)**と**放射線を出さない安定ヨウ素**の2種類があります。

●安定ヨウ素は、昆布や、ひじきなどの海藻類等に含まれています。

放射性ヨウ素(ヨウ素131)が与える影響

放射性ヨウ素が体内に入るとその一部が甲状腺に蓄積され、**内部被ばく**を受けます。放射性ヨウ素による内部被ばくは、甲状腺がん等が発生される恐れがあり、特に、**大人よりも子どもの方が甲状腺がんの発症リスクが高くなる**ことがわかっています。



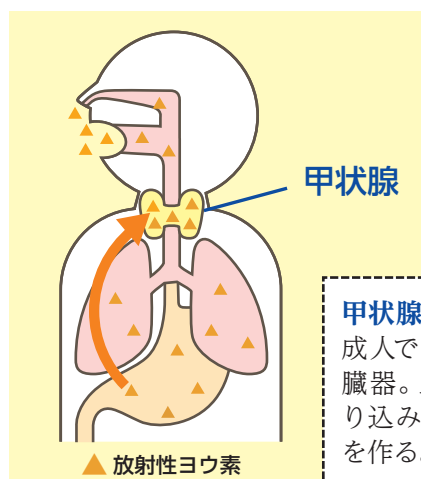
放射性ヨウ素が体内へ入る(内部被ばく)

甲状腺に集積され、放射線を出す

甲状腺の細胞が被ばく

特に子どもへの
影響が大きい

遺伝子が傷つき、発がん



甲状腺とは…
成人で15～20gの小さな臓器。血中のヨウ素を取り込み、甲状腺ホルモンを作る。

安定ヨウ素剤って何？

安定ヨウ素剤は、原子力災害が発生した際に服用する**医療用医薬品**です。放射性ヨウ素が体内に取り込まれる前に、安定ヨウ素剤を服用することで、甲状腺に蓄積される放射性ヨウ素の量を減らすことができます。

効果は、服用から24時間程度です。なお、40歳以上の者への効果はほとんど期待できないとされています。

▼ゼリー剤



▼丸剤



出典：日医工株式会社

服用を優先すべき対象者

●乳幼児・小児

放射性ヨウ素による甲状腺がん等の発症リスクが大人よりも高いため

●妊娠または妊娠している可能性のある人、授乳期にある人

胎児および乳児を放射性ヨウ素による内部被ばくから守るため



適切に服用をした場合

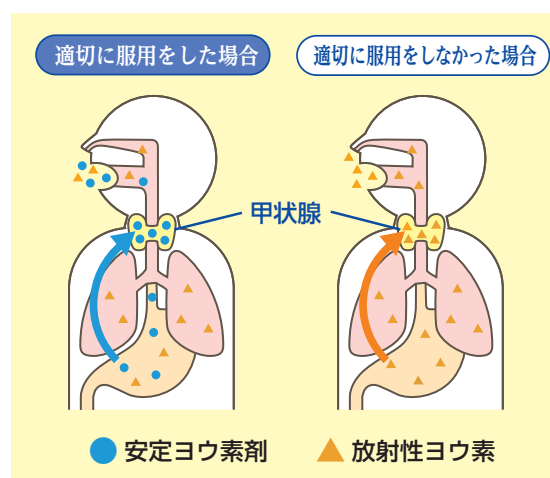
甲状腺を安定ヨウ素剤で満たすことで、放射性ヨウ素の蓄積を低減できます。

適切に服用をしなかった場合

放射性ヨウ素が甲状腺に蓄積され、甲状腺がん等の発症のリスクが高くなります。

市からの指示に従い服用する必要があります。

- ・国や市から指示があるまでは、服用してはいけません。
- ・放射性ヨウ素以外の放射性物質には効きません。
- ・服用による副作用が生じる可能性は極めて低いことがわかっています。
- ・安定ヨウ素剤は、服用のタイミングが最も重要です。



万一の際に、安定ヨウ素剤の服用機会の確保を進めます

放射性ヨウ素からの被ばくを避けるためには、安定ヨウ素剤を適切なタイミングで服用することが最も重要であり、市民の皆さんが的確に安定ヨウ素剤を服用できる環境づくりが必要です。

これまでは、安定ヨウ素剤の備蓄場所が米原診療所の1カ所のみであったため、原子力災害が発生した時、迅速に配布することが困難でした。

このため市では、緊急時に適切な配布ができるよう、安定ヨウ素剤を広域避難所等に分散して備蓄しました。

今後は、緊急時に市民の皆さんへ確実に安定ヨウ素剤を配布できる体制づくりを進めていきます。



防災講演会を開催します

原子力防災を知り、そして備えるために、皆さんで学びましょう

日時 9月17日(土) 10時～11時50分

講演内容

①『自然災害・原発災害からの命の守り方』

講師：守田 敏也氏(ジャーナリスト)

②『安定ヨウ素剤ってなに？どう使うの？』

講師：福田 章典氏(内科医師)

場所 【主会場】

ルッチプラザ バルホール310

【サテライト会場】

米原市役所 本庁舎 コンベンションホール

※主会場からZOOMによる中継